

社会福祉学科 1年 後期 専門科目

1. 心とからだのしくみⅡ
2. 社会福祉の原理と政策Ⅰ
3. 社会福祉調査の基礎
4. 介護過程Ⅰ
5. 地域福祉と包括支援体制Ⅰ
6. 社会保障Ⅰ
7. 介護の基本Ⅱ
8. コミュニケーション技術Ⅱ
9. 生活支援技術Ⅱ
10. 心とからだのしくみⅠ
11. 介護総合演習Ⅰ
12. 福祉サービスの組織と経営
13. 精神障害リハビリテーション論
14. 精神保健福祉制度論
15. 心理学研究法
16. 心理学統計法
17. 心理検査法
18. 介護実習Ⅰ

社会福祉学科

| | | | | | | |
|---|------------|------------|---|----------------|---|--|
| 科目名: こころとからだのしくみⅡ | | | | 担当教員 氏名: 境 美代子 | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格(必修) |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師としての実務経験を活かして、人体各部のしくみについて教授する。 | | | | | | |
| 授業科目の学修教育目標の概要: | | | | | | キーワード |
| 「こころとからだのしくみⅡ」は、介護サービスを提供する際の身体的な根拠を理解していくための授業となる。人体の基本的な構造や機能及びその病的状態について理解し、代表的な疾患についてその概要を理解する。また、介護者の異常を発見し、すぐに報告できる能力を身につけるとともに、保健医療対策と医事法制の概要について理解する。 | | | | | | ライフステージ、人体の構造としくみ、 疾病と障害、生活習慣病、公衆衛生 |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | | |
| A 知識・理解力 | | | 人体のしくみを理解し、人とかかわるケアに必要な人体の機能や関連性を理解する | | | |
| B 専門的技術 | | | 介護の技術を習得するために、人体の構造や機能を理解する | | | |
| D 問題解決力 | | | 解剖学的に人体のしくみを理解し、病的な状態に対応する能力を身につけて行動できる。 | | | |
| G 倫理観 | | | 人体のしくみや機能を理解することにより、対象者を人として理解することで、倫理観を身につける | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | | レポート: 30 % | | 発表: 10 % | | 実技試験: % その他: 10 % |
| 特記事項: 「その他」においては、授業中の態度、出欠状況、授業後の課題演習などの提出状況などで評価する。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業終了後に課題レポートを配布し、理解度を確認する。小テスト実施。最終試験は別に定めた日時に実施する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題レポートや小テストを実施し、採点、コメントし、返却する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | 準備学修(予習・復習等) |
| | | | | | | 学修内容 |
| ①ライフステージにおける心身の変化と健康の課題を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ②健康及び疾病のとらえ方を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ③人体の構造の概要を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ④神経系・心血管系(血液を送るしくみなど)を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑤呼吸器系の構造と機能を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑥消化器系の食物を摂取し消化、吸収、排せつまでのしくみを理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑦尿路(排泄のメカニズム)・生殖器系を理解する <③から⑦の内容の小テスト> | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】①～⑦までの復習 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑧感覚器系(視覚器、聴覚器、平衡器など)を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑨筋骨系(骨と筋肉の関係、体幹の骨格など)を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑩ボディメカニクス・関節可動域(からだ動かす、支えるしくみなど)を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑪バイタルサイン・恒常性を理解する <⑩、⑪の内容の小テスト> | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑫公衆衛生の目的(健康の保持・増進、寿命の延長、疾病の予防)を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑬生活習慣病である疾患から予防対策を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑭介護福祉職に必要な薬の知識を理解する | | | | | | 【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑮まとめ | | | | | | 【予習】全体の復習をする 【予習】30分 |
| 使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」中央法規出版 ISBN978-4-8058-5771-7 C3036 | | | | | その他参考文献など: 「からだからケアがわかる本」中央法規出版ISBN978-4-8058-8381-5 C3036 | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): こころとからだのしくみは、介護技術を習得するために必要な基礎知識となります。人体の機能をしっかり学習してください。 | | | | | | |

| 社会福祉学科 | | | | | 1年 | |
|---|--------------------------------|-------|---------|-------------------------|-----------------|--|
| 科目名: 社会福祉の原理と政策 I | | | | 担当教員 氏名: 鷹西 恒 | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格(必修) 社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修) 福祉心理士 |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | | キーワード |
| ①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 ②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 ③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 ④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。 | | | | | | 社会福祉 理念、歴史 制度 |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | | |
| A 知識・理解力 | 社会福祉の理念と必要性について理解することができる | | | | | |
| C 論理的思考力 | 社会政策や社会福祉の供給体制について理解することができる | | | | | |
| D 問題解決力 | 理論を活用して実践に結びつける力を身につける | | | | | |
| F チームワーク・リーダーシップ | 先人による福祉実践から彼らのリーダーシップや福祉観を考察する | | | | | |
| G 倫理観 | 政策決定(プロセス含)における倫理観の必要性に気づく | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | レポート: 20 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 30 % | | |
| 特記事項: その他とは授業への姿勢、態度のことである。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: (課題解決型学習) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | 準備学習(予習・復習等) |
| | | | | | | 学習内容 |
| | | | | | | 学習に必要な時間(分) |
| ①社会福祉の歴史、思想・哲学、理論、社会福祉の原理と実践 | | | | | | 【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ②社会福祉の歴史1(歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分) | | | | | | 【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ③社会福祉の歴史2(日本の社会福祉の歴史的展開) | | | | | | 【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ④社会福祉の歴史3(欧米の社会福祉の歴史的展開) | | | | | | 【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑤社会福祉の思想・哲学、理論1(哲学、社会正義、平和主義等) | | | | | | 【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑥社会福祉の思想・哲学、理論2(戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、各論等) | | | | | | 【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑦社会福祉の思想・哲学、理論3(社会福祉の論点、効率性、普遍主義、エンパワメント等) | | | | | | 【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑧社会福祉の思想・哲学、理論4(社会福祉の対象とニーズ) | | | | | | 【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑨社会問題(貧困、孤立、失業、要介護性、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、ニューリスク、依存症、自殺) | | | | | | 【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑩社会問題の構造的背景(低成長経済、グローバル化、少子高齢化、人口減少、格差、貧困等) | | | | | | 【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑪福祉政策の基本的な視点1(福祉政策の概念・理念) | | | | | | 【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑫福祉政策の基本的な視点2(社会保障、社会政策、福祉レジームと福祉政策等) | | | | | | 【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑬福祉政策におけるニーズと資源1(ニーズの種類と内容) | | | | | | 【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑭福祉政策におけるニーズと資源2(社会資源開発) | | | | | | 【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑮まとめ | | | | | | 【事前】テキスト全体を読む 【事後】授業全体の復習 【予習】120分 【復習】120分 |
| jigo | | | | | | |
| 使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座4「社会福祉の原理と政策」中央法規 ISBN978-4-8058-8234-4 | | | | その他参考文献など:「厚生労働白書」厚生労働省 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 事前・事後学習において、テキストだけでなく、参考文献や授業で紹介する本、論文等にも目を通してください。 Google ClassroomやGoogle Formsを連絡や評価に使用します。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 社会福祉調査の基礎 | | | | 担当教員 氏名: 松尾 祐子 | | |
|--|------------|---------|---|----------------------------|--------------------------|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門選択科目 | 講義 | 選択 | 介護福祉士受験資格(選択) 社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修) |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験をもとに、社会福祉調査の実際を事例を交えながら授業する。 | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | |
| 福祉専門職として身につけておくべき利用者や地域のニーズを把握し課題を明確化するための手法である社会福祉調査の基本的な知識と技術を習得し、また調査における倫理や個人情報保護についても理解する。 | | | | | 社会福祉調査、倫理と個人情報、量的調査、質的調査 | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | 1. 2. 3. 5. 6. | |
| A 知識・理解力 | | | 社会福祉調査の基本的な知識と調査における倫理や個人情報保護について理解することができる。 | | | |
| B 専門的技術 | | | 社会福祉調査の基本的な技術を習得する。 | | | |
| C 論理的思考力 | | | 社会福祉調査に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。 | | | |
| D 問題解決力 | | | 社会調査法を用いて、利用者や地域の課題を解決する方法を理解することができる。 | | | |
| G 倫理観 | | | 尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。 | | | |
| 成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | | レポート: % | | 発表: 30 % | | 実技: % |
| その他: 20 % | | | | | | |
| 特記事項: 「その他:20%」では、授業態度について評価する。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、実際にグループ毎に調査を行い、授業の中で結果を発表する。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時で実施する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 別に定めた日時で実施するテストに評価を付けて学生に返却する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | | 学習内容 | | 学習に必要な 時間(分) |
| ①オリエンテーション～社会福祉調査の意義と目的 | | | | 【予習】テキスト第1章を読む 【復習】①の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ②社会福祉調査の対象と歴史 | | | | 【予習】テキスト第1章を読む 【復習】②の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ③社会福祉調査における倫理と個人情報保護 | | | | 【予習】テキスト第2章を読む 【復習】③の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ④社会福祉調査のデザインについて① | | | | 【予習】テキスト第3章を読む 【復習】④の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑤社会福祉調査のデザインについて② | | | | 【予習】テキスト第3章を読む 【復習】⑤の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑥社会福祉調査のデザインについて③ | | | | 【予習】テキスト第3章を読む 【復習】⑥の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑦量的調査の方法①～測定～・中間まとめ | | | | 【予習】①～⑥の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑧量的調査の方法⑤～質問紙の作成方法と留意点～ | | | | 【予習】テキスト第4章を読む 【復習】⑧の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑨量的調査の方法⑥～調査票の配布と回収～ | | | | 【予習】テキスト第4章を読む 【復習】⑨の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑩量的調査の方法⑦～調査の集計と分析～ | | | | 【予習】テキスト第4章を読む 【復習】⑩の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑪質的調査の方法①～観察法～ | | | | 【予習】テキスト第5章を読む 【復習】⑪の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑫質的調査の方法②～面接法～ | | | | 【予習】テキスト第5章を読む 【復習】⑫の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑬質的調査の方法③～記録の方法と留意点～ | | | | 【予習】テキスト第5章を読む 【復習】⑬の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑭質的調査の方法④～データの整理と分析～ | | | | 【予習】テキスト第6章を読む 【復習】⑭の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑮ソーシャルワークにおける評価・まとめ | | | | 【予習】⑧～⑭の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| 使用テキスト: 最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座5 「社会福祉調査の基礎」中央法規 ISBN978-4-8058-8235-1 | | | | その他参考文献など: | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。また、2年生の福祉心理研究に必要な知識と技術であるため、できるだけ多くの学生の受講を期待します。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 介護過程 I | | | | 担当教員 氏名: 松尾 祐子 | | |
|--|------------|------------|--------------------------------------|------------------------------------|--------------------|--|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格(必修) 社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修) 福祉心理士 |
| 実務経験を用いてどのよ社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の実務経験を活かし、事例などを用いて支援方法を学ぶ授業を行う。 | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | | キーワード |
| 福祉専門職には専門的知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による支援の展開能力が求められます。本科目では援助過程の意義と目的の理解を深めます。 | | | | | | 利用者理解、利用者主体、個別ケア、自立、生活課題、ニーズ、アセスメント、ケアマネジメント |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | | |
| | | | 2. 3. 5. 6. 7. 9. | | | |
| A 知識・理解力 | | | 介護過程の目的と意義を理解することができる | | | |
| C 論理的思考力 | | | アセスメントから利用者のニーズを把握し、必要な介護実践の組み立てができる | | | |
| D 問題解決力 | | | 課題達成のための方法を模索し、解決策を見出すことができる | | | |
| F チームワーク・リーダーシップ | | | チームケアの概念を養うことができる | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | | レポート: 30 % | | 発表: % | 実技試験: % | その他: 20 % |
| 特記事項: その他の20%は、授業へ取り組む姿勢やワークシートや課題の提出状況について評価する。 7回目に中間評価、15回目に振り返りとまとめを行う。 アクティブラーニングの一環として、グループによる演習を行う。 | | | | | | |
| 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 筆記試験及び演習シートにコメントし個人にフィードバックします。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 筆記試験及び演習シートにコメントし個人にフィードバックします。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | |
| ①介護過程・ケアマネジメントとは | | | | テキスト「介護過程」を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ②生活支援の考え方と介護過程・ケアの必要性 | | | | テキスト「介護過程」を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ③根拠に基づく介護過程・ケアマネジメントの展開 | | | | 事後授業資料を読み返す | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ④個別ケアの視点 | | | | 事後授業資料を読み返す | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑤ICFの視点 | | | | 事後授業資料を読み返す | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑥生活の中の自立について考える | | | | 事後授業資料を読み返す | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑦事例演習 | | | | 事後授業資料を読み返す | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑧情報の収集・整理 | | | | テキスト「情報の収集」を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑨情報の解釈 | | | | テキストの「アセスメント」を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑩アセスメント～生活課題とは | | | | テキストの「アセスメント」を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑪課題の明確化 | | | | 資料を振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑫事例を用いたアセスメント演習①情報の解釈 | | | | 資料を振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑬演習①の振り返り～情報の関連性を客観的に捉える | | | | 資料を振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑭事例を用いたアセスメント演習①課題の明確化 | | | | 資料を振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑮演習②の振り返り～課題の明確化の際の留意点・まとめ | | | | 資料を振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| 使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規 ISBN978-4-8058-5769-4 | | | | その他参考文献など: 「その人を中心に考える介護計画」現代図書 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習には積極的に取り組んでください。取り組みの姿勢を評価します。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 地域福祉と包括的支援体制 I | | | | 担当教員 氏名: 宮嶋 潔 | | | |
|---|------------|------------|--|----------------------------|------------------------|---|--|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 | |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格(必修) 社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修) | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う。 | | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | | キーワード | |
| 地域福祉の概念や歴史的背景を踏まえ地域住民主体の地域福祉の展開又は地域福祉を推進するための福祉行財政と福祉計画との関係性等を理解する。 | | | | | | 地域福祉、福祉行財政、福祉計画、慈善組織協会、コミュニティ・ソーシャルワーク、NPO、ボランティア、福祉教育等 | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定、学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | 1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9 | | |
| A 知識・理解力 | | | 地域福祉に関する知識を体系的に理解することができる。 | | | | |
| B 専門的技術 | | | 地域福祉を実践できる能力を習得する。 | | | | |
| C 論理的思考力 | | | 地域問題を複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。 | | | | |
| D 問題解決力 | | | 地域問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 | | | | |
| G 倫理観 | | | ソーシャルワークの価値と倫理を基本とし、実践活動を展開する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | | |
| テスト: 50 % | | レポート: 20 % | | 発表: % | | 実技試験: % | |
| その他: 30 % | | | | | | | |
| 特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークとプレゼンテーションを行う。 | | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク | | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。 | | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストやレポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。 | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | | |
| ①地域福祉の概念と理論Ⅰ(地域福祉の概念、地域福祉の構造) | | | | 【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ②地域福祉の概念と理論Ⅰ(福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論、ボランティア等) | | | | 【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ③地域福祉の歴史Ⅰ(セツメント、COS、社会事業等) | | | | 【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ④地域福祉の歴史Ⅱ(脱施設化、地方分権、地域包括ケア、地域共生社会等) | | | | 【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑤地域福祉の動向(コミュニティソーシャルワーク、コミュニティサービス等) | | | | 【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑥地域福祉の主体と対象(地方自治体、NPO、民生委員、児童委員等) | | | | 【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑦地域福祉の主体と形成Ⅰ(住民主体、市民活動、福祉教育等) | | | | 【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑧地域福祉の主体と形成Ⅱ(エンパワメント、アドボカシー等)・中間まとめ | | | | 【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑨福祉行財政システムⅠ(国、都道府県、市町村の役割、国と地方の関係) | | | | 【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑩福祉行財政システムⅡ(福祉行財政の組織及び専門職の役割) | | | | 【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑪福祉行財政システムⅢ(福祉における財源) | | | | 【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑫福祉行財政システムⅠ(国、都道府県、市町村の役割、国と地方の関係) | | | | 【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑬福祉計画の意義と種類(福祉計画の目的、種類、歴史等) | | | | 【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑭福祉計画の策定と運用Ⅰ(市町村地域福祉計画等の内容、課題把握と分析等) | | | | 【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| ⑮福祉計画の策定と運用Ⅱ(市町村地域福祉計画等の協議と合意形成及び評価等) | | | | 【事前】今までの授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | | |
| 使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6「地域福祉と包括支援体制」中央法規 ISBN978-4-8058-8236-8 | | | | その他参考文献など: | | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 地域福祉と福祉行財政、福祉計画の基礎を学んでいきますので予習と復習を行ってください。 | | | | | | | |

| 社会福祉学科 | | | | | |
|--|---|---------|----------------------------|----------------------|---|
| 科目名: 社会保障 I | | | 担当教員 氏名: 鷹西 恒 | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 社会福祉士受験資格(必須) 介護福祉士受験資格(必須) 精神保健福祉士受験資格(必須) 社会福祉主事任用資格 |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っている: 社会福祉士等資格を有した教員が、相談援助、自治体の福祉計画策定等の実務経験を生かして授業を行う。 | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: ・社会保障の概念や対象及びその理念について、展開過程も含めて理解する。 ・現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。 ・社会保障制度の財政について理解する。 ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 | | | | | キーワード 社会保障の理念・歴史・概念、 所得保障制度、医療保障制度、 介護保険制度、労働保険制度 |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | |
| A 知識・理解力 | 社会保障に関する知識を体系的に理解することができる。 | | | | |
| B 専門的技術 | 社会保障の各種制度を応用し、支援に活かせる能力を習得する。 | | | | |
| C 論理的思考力 | 社会問題について複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。 | | | | |
| D 問題解決力 | 社会保障を巡る問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 | | | | |
| G 倫理観 | 常にソーシャルワークの価値と倫理を元にして、実践活動を展開できる。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | |
| テスト: 50 % | レポート: 40 % | 発表: 0 % | 実技試験: % | その他: 10 % | |
| 特記事項: その他とは授業の受講態度、出席状況のことである | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート評価は適時、最終評価は筆記試験で実施する。 | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜コメントと採点を行い返却する。 | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | |
| ①現代社会と社会保障(人口動態の変化) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ②現代社会と社会保障(経済環境の変化) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ③現代社会と社会保障(労働環境の変化) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ④社会保障の概念や対象およびその理念(社会保障の概念と範囲) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑤社会保障の概念や対象およびその理念(社会保障の役割と意義) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑥社会保障の概念や対象およびその理念(社会保障の理念・対象) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑦社会保障の概念や対象およびその理念(社会保障の展開) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑧社会保障の財政 | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑨社会保障の財政(社会保障給付費・内訳・動向) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑩社会保障の財政(国民負担率) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑪社会保障の財政(社会保障と経済) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑫社会保険・社会扶助・民間保険の関係(保険と扶助の考え方) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑬社会保険・社会扶助・民間保険の関係(社会保険と社会扶助の考え方) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑭社会保険・社会扶助・民間保険の関係(社会保険と民間保険の現状) | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑮まとめ | | | 【事前】テキスト全体を読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| 使用テキスト: 最新社会福祉養成精神保健福祉養成講座7社会保障、中央法規、 ISBN: 978-4-8058-8237-5 | | | その他参考文献など: 厚生労働白書、福祉六法 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): Google ClassroomやGoogle Formsを連絡や評価に使用します。 | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 介護の基本Ⅱ | | | | 担当教員 氏名: 長井 賢希 | | |
|--|--------------------------|--|--------------------------------------|---|-----------------|--|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 4 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格(必修) |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | 介護福祉士としての介護従事者の経験から自立支援について、事例などを用いながら授業を行います。 | | | | |
| 授業科目の学修教育目標の概要: | | | | | | キーワード |
| 介護を必要とする人の理解をし、保健医療に関する基礎知識を持ち、ICFの概念で人を理解し、自立支援に繋げる視点を学ぶ。またリハビリテーションに関する知識を持ち、チームケアの実践力を持つことを目標としている。 | | | | | | 自立支援 ICF リハビリテーション |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | 2、3、4、5、6 | |
| A 知識・理解力 | | | 自立に向けた介護を行うための知識を習得することができる | | | |
| C 論理的思考力 | | | 利用者主体とはどのような実践で実現するのかを考察し、理解することができる | | | |
| F チームワーク・リーダーシップ | | | 尊厳を支える介護を追求することができる | | | |
| G 倫理観 | | | 他職種との連携を理解することができる | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | レポート: 40 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % | | |
| 特記事項: アクティブラーニングを用いた積極的な意見交換を行います。積極的な授業態度として10%を評価します。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: | | | | | | |
| 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 29回に評価に関する演習を行います。最終回にはまとめを行います。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験に関しては結果を渡し、全体に振り返りを伝えます。 | | | | | | |
| 使用テキスト: 最新・介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」第2版 中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ISBN978-4-8058-8392-1 | | | | その他参考文献など: 「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用 大川弥生著 中央法規出版 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): アクティブラーニングを元にグループワークを取り入れます。授業には積極的に取り組んで下さい。適宜、資料を配布しますので自己管理を行って下さい。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | 準備学修(予習・復習等) |
| | | | | | | 学修内容 |
| 回数 | | | | | | |
| 1 | 授業オリエンテーション～介護福祉士の倫理～の復習 | | | | | テキスト2章を復習・第3章第1節の学習のポイントを振り返る 【予習】30分【復習】30分 |
| 2 | 自立とは | | | | | テキスト4章第1節を読む 【予習】30分【復習】30分 |
| 3 | 自立するための生活支援とは | | | | | 配布資料を読む 【予習】30分【復習】30分 |
| 4 | 自立するために必要な環境 | | | | | 配布資料を読む 【予習】30分【復習】30分 |
| 5 | 自立に合わせた個別ケア | | | | | 配布資料を読む 【予習】30分【復習】30分 |

※前ページよりつづき

社会福祉学科

| 科目名： 介護の基本Ⅱ | | 担当教員 氏名： 長井 賢希 | |
|-------------|-----------------------|----------------|--------------------|
| 授 業 計 画 | | 準備学修(予習・復習等) | |
| | | 学修内容 | 学修に必要な時間(分) |
| 6 | 事例から考える自立した生活 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 7 | 自立した生活 グループワーク | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 8 | 自立支援の考え方と具体的な援助 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 9 | 福祉や介護の対象となる人の理解 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 10 | 生活についての理解 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 11 | 障害を持つということ | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 12 | 国際障害分類と国際生活機能分類 | テキスト4章第2節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 13 | ICFのモデル図から考える生活1 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 14 | ICFのモデル図から考える生活2 演習 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 15 | 施設利用者の生活 環境因子や個人因子 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 16 | 心身機能の理解1 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 17 | 心身機能の理解2 事例から考える | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 18 | ICFの視点が介護に必要な理由 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 19 | 自立支援の考え方と介護福祉士の役割 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 20 | リハビリテーションとは | テキスト4章第3節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 21 | リハビリテーションの概念 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 22 | 介護とリハビリテーションの関係性 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 23 | 介護老人保健施設におけるリハビリテーション | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 24 | 介護予防 | テキスト4章第4節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 25 | 要介護認定 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 26 | 介護予防のための支援 | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 27 | 介護予防のための地域の取り組み | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 28 | 自立支援と介護予防のまとめ | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 29 | 評価のための演習 介護観とは | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 30 | 介護観について自身の考えを深める | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |

社会福祉学科

| 科目名： コミュニケーション技術Ⅱ | | | | 担当教員 氏名： 宮城 和美 | | |
|--|------------|------------|-----------------------------------|---|-----------------|------------------------------|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 1 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 演習 | 選択 | 介護福祉士受験資格(必修) |
| 実務経験を用いてどのよ 介護福祉士及び介護福祉施設の管理者としての経験から、多様な障害に合ったコミュニケーション及び、 うな授業を行っているか： チームにおけるコミュニケーションを担当する。 | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要： | | | | | | キーワード |
| 自分の意思や要求を相手に伝えることが困難になっている方に対し、障害の状態や原因を理解した上で、必要とされる技術を学ぶ。多職種協働におけるチームのコミュニケーション能力も養う。 | | | | | | コミュニケーション障害 チームのコミュニケーション |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号) | | 2. 5. 6. 7. | |
| A 知識・理解力 | | | コミュニケーション障害の原因を理解する。 | | | |
| B 専門的技術 | | | 障害の特性に合わせた技術を習得する。点字の基礎技術を習得する。 | | | |
| F チームワーク・リーダーシップ | | | チームのコミュニケーション方法を理解し、実践できる能力を習得する。 | | | |
| H コミュニケーション力 | | | 人間の心と行動を理解し、自己・他者とコミュニケーションができる。 | | | |
| 成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト： 20 % | | レポート： 40 % | | 発表： 20 % | | 実技試験： % その他： 20 % |
| 特記事項： その他の20%とは授業中に行う演習への取り組みの成果の評価です。グループワークなどを通してアクティブラーニングを意識した授業展開をします。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第14回に最終評価について説明します。第15回目には評価を行い、そのまとめを行います。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：適宜演習で記入するワークシートやテストは、コメント記入・採点し返却する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な 時間(分) | |
| ①オリエンテーション コミュニケーション障害とは | | | | 【予習】教科書(コミュニケーション障害の理解、対応)を読む 予習・復習 30分 | | |
| ②視覚障害のある人への支援 | | | | 【予習】視覚障害(原因・症状)についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ③聴覚障害のある人への支援 | | | | 【予習】聴覚障害についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ④構音障害のある人への支援 | | | | 【予習】構音障害についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑤失語症の人への支援 | | | | 【予習】失語症についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑥認知症の人への支援 | | | | 【予習】認知症についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑦うつ病・抑うつ状態の人への支援 | | | | 【予習】うつ病・抑うつ状態についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑧統合失調症の人への支援 | | | | 【予習】統合失調症についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑨知的障害のある人への支援 | | | | 【予習】知的障害についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑩発達障害のある人への支援 | | | | 【予習】発達障害についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑪高次脳機能障害のある人への支援 | | | | 【予習】高次脳機能障害についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑫重症心身障害のある人への支援 | | | | 【予習】重症心身症についてまとめる。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑬家族とのコミュニケーション | | | | 【予習】困難事例について考える。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑭チームのコミュニケーション | | | | 【予習】チームワークについて考える。 【復習】ワークシートを読む。 予習・復習 30分 | | |
| ⑮まとめ | | | | まとめの授業資料の復習 予習・復習 30分 | | |
| 使用テキスト：最新介護福祉士養成講座15「コミュニケーション技術第2版」編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 ISBN978-4-8058-8394-5 C3036 | | | | その他参考文献など：「改訂 失語症の人と話そう」(中央法規)、ICF国際生活機能分類 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：随時ワークシートを配布するので、ファイル等に保管し持参すること。また、演習内容の理解度や進行状況を見て、講義内容を一部変更します。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 生活支援技Ⅱ | | | 担当教員 氏名: 黒田 美樹・窪田 直美 | | | |
|--|--|---------|--|--------------------------------|-----------------|--|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 演習 | 選択 | 介護福祉士受験資格(必修) |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | 介護福祉士として介護老人福祉施設実務経験を有した教員が、その経験を活かして、介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する技術を学ぶ授業を行う。 | | | |
| 授業科目の学修教育目標の概要: | | | | | | キーワード |
| 生活の豊かさの観点から尊厳の保持や自立支援、本人主体の生活が継続できるようなチームアプローチについて理解し、多職種との協働による自立に向けた清潔・食事・排泄などに関する介護の技術を習得できる。 | | | | | | 福祉用具 清潔保持 食事 排泄 睡眠 |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | | |
| A 知識・理解力 | | | 生活援助の基本的姿勢を理解することができる。 | | | |
| B 専門的技術 | | | 利用者に対する適切な生活支援技術を習得することができる。 | | | |
| C 論理的思考力 | | | 科学的な根拠をもとに安全・安楽な技術を実践できる | | | |
| G 倫理観 | | | 利用者の尊厳を遵守した生活支援技術が展開できる | | | |
| H コミュニケーション力 | | | 自立支援や利用者主体の技術を行うためのコミュニケーション能力を養うことができる | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 40 % | | レポート: % | | 発表: % | | 実技試験: 40 % |
| その他: 20 % | | | | | | |
| 特記事項: アクティブラーニングを基本とするため、各演習の取り組み状況を評価する。その他の20%とは、授業態度や授業の取り組み姿勢・事前学習課題の状況が対象となります。2クラスに分かれて行う2コマ連続の授業です。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: | | | | | | |
| 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験の実施時期: 27回・28回目に事例演習を実施します。29回目に筆記試験、30回に授業のまとめを行います。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 最終試験は筆記と実技の結果を本人に伝える。 | | | | | | |
| 使用テキスト: ①最新・介護福祉士養成講座 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版【第2版】「生活支援技術Ⅰ」ISBN978-4-8058-8395-2 ②最新・介護福祉士養成講座 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版【第2版】「生活支援技術Ⅱ」ISBN978-4-8058-8396-9 中央法規出版 | | | | その他参考文献など: 「ぜんぶわかる人体解剖図」 成美堂出版 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目は、アクティブラーニングを基本とした介護実習室での授業となります。グループに分かれての授業となります。メンバー同士協力し事前準備や片付けを行って下さい。使用物品や用具などは正しく丁寧に扱う習慣をつけて下さい。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | 準備学修(予習・復習等) |
| | | | | | | 学修内容 |
| 回数 | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション(目的や留意点・授業の展開方法・評価) I生活支援に活かすICF | | | | | 授業の展開方法や実習室における使用方法を理解する 【予習】30分 【復習】30分 |
| 2 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴介助 1 「機械浴・個浴・洗髪」の講義 | | | | | 【予習】テキストを読む (1)入浴・清潔保持の意義と目的 (2)入浴・清潔保持の介護技術 【復習】小テスト |
| 3 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴介助 2 「機械浴・個浴・洗髪」の実技① | | | | | |
| 4 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴介助 3 「機械浴・個浴・洗髪」の実技② | | | | | 【予習】テキストを読む (1)清潔保持の介護 (2)入浴・清潔保持の道具・用具 【復習】小テスト |
| 5 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 清潔保持の介助「清拭・手浴・足浴」① | | | | | |

※前ページよりつづき

社会福祉学科

| 科目名: 生活支援技Ⅱ | | 担当教員 氏名: 黒田 美樹・窪田 直美 | |
|-------------|---|---|--------------------|
| 授 業 計 画 | | 準備学修(予習・復習等) | |
| | | 学修内容 | 学修に必要な時間(分) |
| 6 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 清潔保持の介助「清拭・手浴・足浴」② | 【予習】テキストを読む (1)清潔保持の介護 (2)入浴・清潔保持の道具・用具 習]小テスト | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 7 | 自立に向けた食事の介護 食事介助 1「食事の意義・目的・姿勢など」 | 【予習】テキストを読む (1)意義と目的 | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 8 | 自立に向けた食事の介護 食事介助 2「自立に向けた食事の介護」 | (2)食事における介護技術 習]小テスト | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 9 | 自立に向けた食事の介護 食事介助 3「介護職の体験」① 利用者の状態に合わせた食事の介護 | 【予習】テキストを読む (1)自立に向けた食事 (2)食事における介護技術 | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 10 | 自立に向けた食事の介護 食事介助 4「介護職の体験」② 利用者の嚥下状態に合わせた食事形態 | 【予習】テキストを読む (1)食べるメカニズムを考える (2)食事における介護技術 | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 11 | 自立に向けた食事の介護 嚥下状態に応じた食事の工夫 | 【予習】テキストを読む (1)食事で使用する自助具 (2)食事における介護技術 | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 12 | 福祉用具の意義と活用 福祉用具とICT 特別養護老人ホームの実践から学ぶ | 【予習】テキストを読む 移動の意 義と目的 【復習】配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 13 | 福祉用具の意義と活用 福祉用具の活用と腰痛対策 特別養護老人ホームの実践から学ぶ | 【予習】テキストを読む 移動の意 義と目的 【復習】配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 14 | 福祉用具の意義と活用 福祉用具の活用と腰痛対策留意した移動の介護1 基本演習 | 【予習】テキストを読む 移動の意 義と目的 【復習】配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 15 | 福祉用具の意義と活用 福祉用具の活用と腰痛対策留意した移動の介護2 応用演習 | 【予習】テキストを読む 移動の意義と目的 【復習】配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 16 | 中間まとめ | 【予習】テキストを読む 移動の意 義と目的 【復習】配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 17 | 自立に向けた排泄の介護 排泄の介助 1「トイレでの排泄介助」 | 【予習】テキストを読む (1)排泄の意義と目的 | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 18 | 自立に向けた排泄の介護 排泄の介助 2「ポータブルトイレでの排泄介助」 | (2)排泄における介護技術 【復習】小テスト | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 19 | 自立に向けた排泄の介護 排泄の介助 3「紙おむつ」① ベッド上でのおむつ交換 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 20 | 自立に向けた排泄の介護 排泄の介助 4「紙おむつ」② | 【予習】テキストを読む (1)自立した排泄とは (2)排泄における介護技術 【復習】小テスト | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 21 | 自立に向けた排泄の介護 排泄の介助 5「排泄方法の選択」 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 22 | 自立に向けた排泄の介護 排泄の介助 6「尿器・便器」 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 23 | 事例演習 1-① | 【予習】事例課題を理解する 【復習】実技練習をする | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 24 | 事例演習 1-② | 【予習】事例課題を理解する 【復習】実技練習をする | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 25 | 事例演習 2-① | 【予習】事例課題を理解する 【復習】実技練習をする | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 26 | 事例演習 2-② | 【予習】事例課題を理解する 【復習】実技練習をする | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 27 | 実技試験:演習のまとめ | 【予習】事例課題を理解する 【復習】実技練習をする | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 28 | 実技試験:演習のまとめ | 【予習】事例課題を理解する 【復習】実技練習をする | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 29 | 筆記試験・後期授業のまとめ | 【予習】配布資料を理解する 【復習】まとめのシートに記入 | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 30 | 後期授業の振り返りと自己分析しまとめる | 【予習】配布資料を理解する 【復習】まとめのシートに記入 | 【予習】30分 【復習】30分 |

社会福祉学科

1年

| | | | | | | |
|--|-------------------------------------|----------|---|------------------------------|---|---------------|
| 科目名: ころとからだのしくみ I | | | | 担当教員 氏名: 才川 亨子 | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 選択 | 介護福祉士受験資格(必修) |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | 特別養護老人ホームやデイサービスでの実例を基に、ヒトの心と身体について考えていきます。 | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | |
| 介護サービスを提供する際の心理的な根拠を理解する。多様な介護サービスに専門的に応えていくためには、エビデンスに裏付けられたサービスが必要であり、ころのしくみの基礎(人間として基本的な要求および心理学理論による人間理解とその方法)から学ぶ。人間の基本的・社会的な欲求、自己概念と尊厳、思考、学習、記憶、感情、動機づけなど。 | | | | | ころ 人間の基本的・社会的な欲求 自己概念と尊厳・思考・学習・記憶 感情動機付け | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | | |
| A 知識・理解力 | 人間の基本的な心理について知識を身につけます | | | | | |
| C 論理的思考力 | 知識をもとに日常生活で起こりやすい事柄について自分なりに考えます | | | | | |
| F チームワーク・リーダーシップ | さまざまな考えをまとめ、集団活動に生かします | | | | | |
| H コミュニケーション力 | 自身の考えを主張するだけでなく、他者との調和を図るスキルを身につけます | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 20 % | レポート: 30 % | 発表: 20 % | 実技試験: % | その他: 30 % | | |
| 特記事項: 身近な事例を基にグループ内の討議を毎回導入します。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:コメントを書いて返却します。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | |
| ①ころのしくみを学ぶ意義 (心理学の意義と歴史) | | | | 授業内の重要語句の意味を確認 | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ②人間の欲求の基本的理解 (心理学の対象と研究方法、人間の心理学的理解、人間理解のための心理学理論と技法) | | | | 人の欲求は何かがあるか考えよう | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ③自己実現といきがい | | | | いきがいは何かまとめてください | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ④ころのしくみに関する基礎概念(思考) | | | | 思考のしくみの理解 | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑤ころのしくみに関する基礎概念(学習) | | | | 学習のしくみの理解 | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑥ころのしくみに関する基礎概念(記憶) | | | | 記憶のしくみの理解 | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑦まとめ(レポート) | | | | 【予習】①～⑥を整理しよう | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑧ころのしくみに関する基礎概念(感情) | | | | 感情のしくみの理解 | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑨ころのしくみに関する基礎概念(認知) | | | | 認知のしくみの理解 | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑩ころのしくみに関する基礎概念(意欲) | | | | 思考のしくみの理解 | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑪ころのしくみに関する基礎概念(動機づけ) | | | | 行動する理由を整理しよう | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑫適応のしくみの理解 | | | | 適応とは何か考えよう | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑬人間の社会的欲求 | | | | 人の欲求と関連付けてみよう | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑭人間の尊厳について | | | | 人間の尊厳について考えよう | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| ⑮まとめ(レポート) | | | | 【予習】⑦～⑭を整理しよう | 【予習】30分 【復習】30分 | |
| 使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座11「ころとからだのしくみ」中央法規出版 ISBN978-4-8058-5771-7 C3036 | | | | その他参考文献など: 介護福祉士国家試験模擬問題集 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業では皆さんの積極的な発言を重視します。ヒトの心について考えていきましょう | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 介護総合演習 I | | | | 担当教員 氏名: 宮嶋 潔 | | | | | |
|--|------------|---------------------------|-----------------------------------|-----------------|----------------------------------|-------|---|------|------|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 | | | | |
| 1 | 1年次 後期 | 専門科目 | 演習 | 選択 | 介護福祉士受験資格(必修) | | | | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士としての経験から実習施設の理解について具体的に授業を行う。 | | | | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | | | | |
| 介護福祉士の実習 I 区分に該当する介護実習 I のための介護総合演習である。高齢者施設や障害者支援施設、富山型デイサービスなど多様な実習施設において、コミュニケーションを通し支援を必要とする方の理解をし、その方々とのかかわりを適正に記録できるよう演習を行う。 | | | | | 実習 高齢者施設 障害者支援施設 富山型デイサービス 記録 | | | | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | | | | | |
| | | | 2. 3. 4. 5. 6. 7. 9. | | | | | | |
| A 知識・理解力 | | 実習 I の目的を理解することができる | | | | | | | |
| B 専門的技術 | | 利用者主体で関わる事ができる | | | | | | | |
| C 論理的思考力 | | 自身の実践を振り返り考察する能力を養うことができる | | | | | | | |
| G 倫理観 | | 実習生としての倫理を深く考える | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | | | | |
| テスト: | % | レポート: | 50 % | 発表: | 40 % | 実技試験: | % | その他: | 10 % |
| 特記事項: 実習に向けて必要なレポートや記録物にて評価をします。 | | | | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: | | | | | | | | | |
| 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最終評価は実習前後のレポートなどを元に行います。 | | | | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントなどを記入して返却します。 | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | | | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | | | | |
| ①実習の理解と実習先施設の理解 | | | | テキスト第1章第1・2節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ②介護福祉士の実習の理解と実習先施設の理解 | | | | テキスト第3章第1節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ③多様な施設の理解 | | | | テキスト第4章を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ④多様な利用者の理解(障害や疾病の理解) | | | | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑤応用的なコミュニケーションの理解 | | | | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑥記録の理解 | | | | 実習要綱を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑦事例を用いた記録の演習 | | | | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑧配属先実習施設の理解のための事前学習 | | | | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑨実習施設への事前訪問の準備とアポイントメント | | | | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑩出席表や健康観察表などの準備 | | | | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑪実習指導者からの学び～障害者施設等～ | | | | 配布資料を読む、記入する | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑫実習指導者からの学び～高齢者施設～ | | | | 配布資料を読む、記入する | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑬巡回教員との事前打ち合わせ報告会 | | | | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑭実習計画の理解と施設内における報告・連絡・相談 | | | | 配布資料を読む | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| ⑮実習報告会 | | | | 報告書の作成 | 【予習】30分 【復習】30分 | | | | |
| 使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」第2版 中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ISBN978-4-8058-8399-0 ②学科にて配布する社会福祉学科「実習要綱」 | | | | その他参考文献など: | | | | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習要綱及び実習ファイル等は授業の中で配布します。自己管理に留意すること。 | | | | | | | | | |

社会福祉学科

1年

| 科目名: 福祉サービスの組織と経営 | | | | 担当教員 氏名: 宮嶋 潔 | | |
|---|------------|--------------------------|---------|-----------------------------------|--------------------------------|--|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 | |
| 2 | 1年次 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 社会福祉士受験資格(必修) 介護福祉士受験資格(必修) | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉協議会での10年間の勤務経験から、施設運営管理の実際や運営管理におけるリーダーシップの具体的展開を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | |
| ①ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解する。 ②社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を理解する。 ③福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解する。 ④福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントについて理解する。 | | | | | 福祉サービス、運営管理、リーダーシップ | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | 自己形成を進める行動 目標 | | 1. 2. 6. 8. 9. 10 | | |
| A 知識・理解力 | | 福祉サービスを行なう組織や団体について理解する。 | | | | |
| B 専門的技術 | | 組織や経営理論を学ぶ。 | | | | |
| E 自己管理能力 | | 運営管理の重要性と方法について理解する。 | | | | |
| F チームワーク・リーダーシップ | | リーダーシップの基礎理論について理解する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | レポート: 20 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 30 % | | |
| 特記事項: 社会福祉士施設の組織マネジメントにかかるグループディスカッション及びロールプレイを実施する。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 15回目終了後。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験後に解説を行う。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | |
| ①福祉サービスにおける組織・経営 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】組織論・経営論のまとめ | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ②福祉サービスと制度 | | | | 【予習】社会福祉制度の確認 【復習】福祉サービスと経営の整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ③福祉サービスにかかわる組織や団体 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】各種法人の概念整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ④福祉サービスにかかわる組織や団体 社会福祉法人 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】社会福祉法人の概念整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑤福祉サービスにかかわる組織や団体 特定非営利活動団体等 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】NPO法人の概念整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑥福祉サービスの組織と経営の基礎理論 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】経営に関する基礎概念整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑦福祉サービスの組織と経営の基礎理論 事業計画 組織 管理運営の基礎理論他 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】事業計画の作成理論整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑧福祉サービスの組織と経営の基礎理論 集団力学 リーダーシップによる基礎理論 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】組織論の具体的課題整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑨福祉サービスの管理運営の方法(1) サービス管理 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】サービス管理の基礎整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑩福祉サービスの管理運営の方法(2) サービスマネジメント | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】福祉マネジメントの整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑪福祉サービスの管理運営の方法(3) 苦情対応とリスクマネジメント | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】リスクマネジメントの整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑫福祉サービスの管理運営の方法(4) 人事管理と労務管理 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】人事・労務管理の基礎整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑬福祉サービスの管理運営の方法(5) 会計管理と財務管理 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】福祉会計・財務の管理整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑭福祉サービスの管理運営の方法(6) 情報管理 | | | | 【予習】テキスト内容の確認 【復習】福祉情報のあり方整理 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑮ふりかえり | | | | 【予習】福祉サービスの最新動向 【復習】福祉経営戦略のまとめ | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| 使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座1「福祉サービスの組織と経営」 中央法規 ISBN978-4-8058-8244-3 | | | | その他参考文献など: | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「社会福祉学」のみならず、「経営学」の学びを意識していただきたい。 | | | | | | |

社会福祉学科

| | | | | | | |
|---|------------|---------|---|---------------------------------|----------------|----------------------------------|
| 科目名: 精神障害リハビリテーション論 | | | | 担当教員 氏名: 川原 洋平 | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門選択科目 | 講義 | 選択 | 介護福祉士受験資格(選択) 精神保健福祉士受験資格(必修) |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | 精神障害者支援施設での勤務経験を活かして、現状や課題も含めた授業を展開している。 | | | |
| 授業科目の学修教育目標の概要: | | | | | キーワード | |
| ①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。 | | | | | 精神障害・リハビリテーション | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | | |
| A 知識・理解力 | | | 精神障害リハビリテーションの概念やプログラムについて理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 | | | |
| C 論理的思考力 | | | 精神障害リハビリテーションに関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。 | | | |
| G 倫理観 | | | 精神障害リハビリテーションに必要な倫理を理解する。 | | | |
| 成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 60 % | | レポート: % | | 発表: 20 % | | 実技試験: % |
| | | | | | | その他: 20 % |
| 特記事項: 「その他:20%」では、授業態度について評価する。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けて学生に返却する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学修(予習・復習等) | | |
| | | | | 学修内容 | | 学修に必要な時間(分) |
| ①精神障害リハビリテーションの理念と定義 | | | | 【予習】テキスト第2章第1節を読む 【復習】①の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ②医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション | | | | 【予習】テキスト第2章第2節を読む 【復習】②の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ③精神障害リハビリテーションの基本原則 | | | | 【予習】テキスト第2章第3節を読む 【復習】③の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ④精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係 | | | | 【予習】テキスト第1章第1章を読む 【復習】④の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑤地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義 | | | | 【予習】テキスト第2章第4節を読む 【復習】⑤の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑥精神障害リハビリテーションの構成及び展開①～精神障害リハビリテーションの対象～ | | | | 【予習】テキスト第3章第1節を読む 【復習】⑥の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑦精神障害リハビリテーションの構成及び展開②～チームアプローチ～ | | | | 【予習】テキスト第3章第2節を読む 【復習】⑦の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑧精神障害リハビリテーションの構成及び展開③～精神障害リハビリテーションのプロセス～ | | | | 【予習】テキスト第3章第3節を読む 【復習】⑧の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑨精神障害リハビリテーションの構成及び展開④～精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割～中間まとめ | | | | 【予習】①～⑧の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑩精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関①～医学的リハビリテーションプログラム～ | | | | 【予習】テキスト第4章第1節を読む 【復習】⑩の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑪精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関②～職業的リハビリテーションプログラム～ | | | | 【予習】テキスト第4章第2節を読む 【復習】⑪の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑫精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関③～社会的リハビリテーションプログラム～ | | | | 【予習】テキスト第4章第3節を読む 【復習】⑫の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑬精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関④～教育的リハビリテーションプログラム～ | | | | 【予習】テキスト第4章第4節を読む 【復習】⑬の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑭精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑤～家族支援プログラム～ | | | | 【予習】テキスト第4章第5・6節を読む 【復習】⑭の復習 | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| ⑮精神障害リハビリテーションの動向と実際・まとめ | | | | 【予習】テキスト第5章を読む | | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論」 法規出版 ISBN:978-4-8058-8254-2 C3036 | | | | その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。また、福祉の制度の変化は早いので日頃から新聞等で動向を確認するよう心がけること。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 精神保健福祉制度論 | | | 担当教員 氏名: 山本 純子 | | | |
|---|--------------------------------|---------|--|-------------|--------------------------------------|------------------------------|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 選択 | 介護福祉士受験資格(選択) 精神保健福祉士受験資格 |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | 精神保健福祉士の資格を有する教員が、精神科病院や精神障害者支援施設での相談支援等の実務経験を通して、生活支援の実践に不可欠である精神障害者に関する制度・施策を体系的に理解できるよう授業を展開する。 | | | |
| 授業科目の学修教育目標の概要: | | | | | キーワード | |
| ①精神障害者に関する法制度の体系について理解する ②精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する ③生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する ④障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の課題と限界について考えることができる | | | | | 精神障害者、精神保健福祉法、医療観察法、 精神保健福祉士 生活支援 | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | | |
| A 知識・理解力 | 精神保健福祉に関する法制度の体系について理解する | | | | | |
| C 論理的思考力 | 精神保健福祉に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる | | | | | |
| D 問題解決力 | 精神障害者の生活課題について解決策を考えることができる | | | | | |
| G 倫理観 | 精神障害者の支援に必要な倫理を理解する | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | レポート: 40 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % | | |
| 特記事項: 「その他10%」については、授業中の態度、課題等の提出状況、出欠の状況等で評価する。 アクティブラーニングの一環としてグループワーク、発表を行う。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: | | | | | | |
| 課題解決型学修 | ディスカッション、ディベート | グループワーク | プレゼンテーション | 実習、フィールドワーク | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半で、日時を指定し、実施する | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート及び解答用紙返却時のコメント等によってアドバイス等を行う | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | 準備学修(予習・復習等) | | | |
| | | | 学修内容 | | 学修に必要な時間(分) | |
| ①精神障害者に関する法律の体系 | | | 【事前】テキスト第1章を読む 【事後】①の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ②精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割 | | | 【事前】テキスト第1章を読む 【事後】②の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ③医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 | | | 【事前】テキスト第2章を読む 【事後】③の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ④精神障害者の医療に関する課題Ⅰ ~非自発的入院・意思決定支援・家族等の同意~ | | | 【事前】テキスト第2章を読む 【事後】④の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑤精神障害者の医療に関する課題Ⅱ ~アウトリーチ・精神科救急~ | | | 【事前】テキスト第2章を読む 【事後】⑤の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑥精神障害者の医療に関する課題Ⅲ ~地域移行・地域定着と医療観察法の課題~ | | | 【事前】テキスト第3章を読む 【事後】⑥の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑦相談支援制度と精神保健福祉士の役割 | | | 【事前】テキスト第3章を読む 【事後】⑦の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑧居住支援制度と精神保健福祉士の役割 | | | 【事前】テキスト第3章を読む 【事後】⑧の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑨就労支援制度と精神保健福祉士の役割⑨ | | | 【事前】テキスト第3章を読む 【事後】⑨の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑩精神障害者の生活支援制度に関する課題 | | | 【事前】テキスト第4章を読む 【事後】⑩の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑪生活保護制度と精神保健福祉士の役割 | | | 【事前】予テキスト第4章を読む 【事後】⑪の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑫生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割 | | | 【事前】テキスト第4章を読む 【事後】⑫の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑬低所得者対策と精神保健福祉士の役割Ⅰ ~生活福祉資金貸付制度・求職者支援制度~ | | | 【事前】テキスト第5章を読む 【事後】⑬の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑭低所得者対策と精神保健福祉士の役割Ⅱ ~低所得者対策における精神保健福祉士の役割~ | | | 【事前】テキスト第1~5章を読む | | 【予習】120分 【復習】130分 | |
| ⑮精神障害者の経済的支援制度に関する課題 | | | 【事前】テキスト第5章を読む 【事後】⑮の復習 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| 使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 「最新 精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論」 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8255-9 | | | その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する | | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テーマが重複する場合があるので、配布した資料は毎回持参すること | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 心理学研究法 | | | 担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎 | | | |
|--|------------|-------|---|---|----------------------------------|----|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | |
| 心理学で用いられている自然科学的研究法について学び、自らの問題意識に基づいて、仮説を立て、研究をデザインするための基礎的知識を習得する。 | | | | | 仮説、実験、調査、サンプリング、 バイアス、信頼性と妥当性 | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号) | | 2. 3. 6. | |
| A 知識・理解力 | | | 心理学に関する基礎的知識を身に付ける。 | | | |
| C 論理的思考力 | | | 人間の行動や心理について、科学的・客観的に理解するための専門的技術の基礎を身に付ける。 | | | |
| D 問題解決力 | | | 問題に対して仮説を立て、情報を収集・分析するために必要な方法論を習得する。 | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 40 % | レポート: 40 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 20 % | | |
| 特記事項: レポート(30%)、期末試験(50%)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: | | | | | | |
| 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と終了時にフィードバックを行う。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な 時間(分) | |
| ①リサーチクエスションと仮説 | | | | リサーチクエスションを立てる。 | 30 | |
| ②実験的方法と非実験的方法 | | | | 研究テーマについて情報収集する。 | 60 | |
| ③研究デザイン | | | | 研究の大枠を考える。 | 60 | |
| ④サンプリング法 | | | | 仮説を立てる。 | 60 | |
| ⑤実験のバイアス | | | | サンプルとサンプリングを考える。 | 60 | |
| ⑥信頼性と妥当性 | | | | 研究デザインを考える。 | 60 | |
| ⑦実験の統制 | | | | 研究デザインを洗練させる。 | 60 | |
| ⑧文化的バイアスと研究倫理 | | | | レポートを提出する。 | 60 | |
| ⑨記述統計 | | | | 図表の作り方について調べてまとめる。 | 60 | |
| ⑩尺度 | | | | 尺度について調べてまとめる。 | 60 | |
| ⑪推測統計の種類 | | | | 記述統計と推測統計の違いについて調べる。 | 60 | |
| ⑫いろいろな検定法と検定結果の解釈 | | | | 興味のある心理系論文を入手して読む。 | 60 | |
| ⑬質的データの扱い方 | | | | 興味のある心理系論文を入手して読む。 | 60 | |
| ⑭研究レポートの書き方 | | | | 興味のある心理系論文を入手して読む。 | 60 | |
| ⑮まとめ: 心理学研究のデザイン | | | | 総復習をする。 | 120 | |
| 使用テキスト: 心理学研究法入門、アン・サール(著)、宮本聡介・渡邊真由美(訳)、新曜社、ISBN978-4-7885-0943-6 | | | | その他参考文献など: 高野陽太郎(著)心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし[有斐閣アルマ] | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 心理学研究法を習得するためには、自らの問題意識に基づいて、研究をデザインして見ることが最も効果的であり、議論への積極的な参加・発言を求めます。アクティブ・ラーニングで学びます。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 心理学統計法 | | | 担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎 | | | |
|--|------------|-------|--------------------------------------|---|-------------------------------------|----|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 選択 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | |
| 心の諸問題について収集されたデータを分析・解釈し、意味づけるための統計学的技術を習得する。 | | | | | t検定、分散分析、相関分析、 因子分析、 χ^2 分析 | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号) | | 2. 5. 9. | |
| A 知識・理解力 | | | 心理学統計法における基礎知識を理解している。 | | | |
| B 専門的技術 | | | 利用者の生活ニーズをアセスメントするための情報分析技術を身に付けている。 | | | |
| C 論理的思考力 | | | 人間の行動や心理について論理的に思考する力を身に付けている。 | | | |
| D 問題解決力 | | | 問題解決のために収集された情報を分析・解釈できる。 | | | |
| H コミュニケーション力 | | | 情報を的確にまとめ、わかりやすく説明できる。 | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 80 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 20 % | | |
| 特記事項: 与えられたデータを実際に統計処理しながら、スキルを身につけるアクティブラーニングで学びます。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と終了時に学習到達度を個別にフィードバックし、必要のある学生に対しては補習を行う。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | 準備学習(予習・復習等) | | | |
| | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | | |
| ①尺度と代表値の理解と仮説検定の考え方 | | | 代表値と仮説検定についてまとめる | 30 | | |
| ②エクセルの基本とデータ入力の基本 | | | データ入力方法の練習 | 120 | | |
| ③平均値と標準偏差の算出方法とグラフの作図 | | | 代表値の算出と作図の練習 | 120 | | |
| ④t検定の考え方 | | | t検定についてまとめる | 120 | | |
| ⑤対応のないt検定の手順 | | | 対応のないt検定の練習 | 120 | | |
| ⑥対応のあるt検定の手順 | | | 対応のあるt検定の練習 | 120 | | |
| ⑦一要因被験者間分散分析の手順 | | | 被験者間分散分析の練習 | 120 | | |
| ⑧一要因被験者内分散分析の手順 | | | 被験者内分散分析の練習 | 120 | | |
| ⑨平均値の差の検定のまとめ | | | 第1回～第8回までの総復習 | 180 | | |
| ⑩二要因分散分析および交互作用の考え方 | | | 二要因分散分析についてまとめる | 120 | | |
| ⑪相関分析の考え方と手順 | | | 相関分析の練習 | 120 | | |
| ⑫重回帰分析および因子分析の考え方 | | | 重回帰分析・因子分析をまとめる | 120 | | |
| ⑬クロス集計表の理解と作成 | | | クロス集計表の練習 | 120 | | |
| ⑭ χ^2 乗検定の考え方と手順 | | | χ^2 乗検定の練習 | 120 | | |
| ⑮相関および名義尺度データについての分析のまとめ | | | 第9回～第14回までの総復習 | 180 | | |
| 使用テキスト: ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで—、田中敏・山際勇一郎(著)、教育出版株式会社、ISBN978-4-316-32901-7 | | | | その他参考文献など: 村井潤一郎・柏木恵子(著)ウォームアップ心理統計[東京大学出版会]; 丸山欣哉・佐々木隆之・大橋智樹(著)学生のための心理統計法要点[おうふう] | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 統計学を学ぶには、実際にデータを自ら分析・処理してみる以外の近道はありません。自分でデータ分析を行なうアクティブ・ラーニングで学びます。事後学習での練習が大切です。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 心理検査法 | | | 担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎 | | | |
|---|------------|-------|-----------------------------------|---|-----------------|----------------------|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 選択 | 福祉心理士 |
| 実務経験を用いてどのよ心理臨床の実務経験に基づき、心理臨床の実践に必要な心理検査の概要について、体験的に学ぶ授うな授業を行っているか: 業展開を行っている。 | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | | キーワード |
| 心理検査の基礎を学び、人間の多様な心理を客観的に根拠をもって理解するための技術の基礎を習得し、自らを客観的に捉える力を養う。 | | | | | | 知能検査、発達検査、脳機能検査、性格検査 |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号) | | 1. 2. 3. 5. 6. | |
| A 知識・理解力 | | | 心理検査の基礎知識を身に付けている。 | | | |
| C 論理的思考力 | | | 人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。 | | | |
| E 自己管理能力 | | | 自己を客観的に見つめ理解し、自らを律することができる。 | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 40 % | レポート: 40 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 20 % | | |
| 特記事項: | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | |
| ①心理検査実施時の注意事項、倫理規定および報告書の書き方。 | | | | 心理・福祉における倫理規定を調べる。 | 30 | |
| ②知能検査1:ビネー式知能検査 | | | | ビネー式知能検査についてまとめる。 | 60 | |
| ③知能検査2:ウェクスラー式知能検査 | | | | ウェクスラー式知能検査についてまとめる。 | 60 | |
| ④知能検査3:その他の知能検査 | | | | 知能検査について復習する。 | 60 | |
| ⑤性格検査1:質問紙法検査 | | | | 質問紙法性格検査についてまとめる。 | 60 | |
| ⑥性格検査2:投影法検査 | | | | 投影法性格検査についてまとめる。 | 60 | |
| ⑦性格検査3:作業検査法検査 | | | | 作業検査法性格検査についてまとめる。 | 60 | |
| ⑧知能検査と性格検査のまとめ | | | | レポートをまとめる。 | 60 | |
| ⑨乳幼児の発達に関する検査 | | | | 発達検査についてまとめる。 | 60 | |
| ⑩行動・社会性に関する検査および親子関係に関する検査 | | | | 行動・社会性に関する検査についてまとめる。 | 60 | |
| ⑪言語発達に関する検査 | | | | 失語症検査についてまとめる。 | 60 | |
| ⑫知覚・感覚に関する検査 | | | | 知覚に関する検査についてまとめる。 | 60 | |
| ⑬記憶に関する検査 | | | | 記憶検査についてまとめる。 | 60 | |
| ⑭高次脳機能検査 | | | | 高次脳機能検査についてまとめる。 | 60 | |
| ⑮全体のまとめ | | | | 総復習をする。 | 120 | |
| 使用テキスト: テキストなし。必要な資料等は講義時に配布する。 | | | | その他参考文献など: 松原達哉(編)心理テスト法入門第4版—基礎知識と技法習得のために—[日本文化科学社] | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 心理・福祉の領域で用いられている各種心理検査について学び、体験しながら、心理アセスメントの基礎を学びます。体験学習によるアクティブ・ラーニングで学びます。 | | | | | | |

社会福祉学科

| | | | | | | | | | |
|---|------------|-------|-----------------------------------|------------------------|----------------------------|---------------|---|------|---|
| 科目名: 介護実習 I | | | | 担当教員 氏名: 宮嶋 潔・社会福祉学科教員 | | | | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 | | | |
| 3 | 1年次 | 後期 | 専門科目 | 実習 | 選択 | 介護福祉士受験資格(必修) | | | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 福祉従事経験のある教員が、福祉施設における実習の充実に向けた学習支援を行います。 | | | | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | | | | |
| 高齢者施設や障害者支援施設、富山型デイサービスなど多様な実習施設において、コミュニケーションを通し支援を必要とする方の理解をする。また適正な記録方法についても身につける。 | | | | | 実習 コミュニケーション 多様性 | | | | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. | | | | |
| B 専門的技術 | | | 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーションが実践できる | | | | | | |
| C 論理的思考力 | | | かかわりを振り返り考察することができる | | | | | | |
| D 問題解決力 | | | 実習中における課題を解決するために思考する | | | | | | |
| H コミュニケーション力 | | | 利用者及び実習指導者とコミュニケーションを図る | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | | | | |
| テスト: | % | レポート: | % | 発表: | % | 実技試験: | % | その他: | % |
| 特記事項: | | | | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: | | | | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | | | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な 時間(分) | | | | |
| ① | | | | | | | | | |
| ② | | | | | | | | | |
| ③ | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | |
| ⑤ | | | | | | | | | |
| ⑥ | | | | | | | | | |
| ⑦ 社会福祉学科 実習要綱参照 | | | | | | | | | |
| ⑧ | | | | | | | | | |
| ⑨ | | | | | | | | | |
| ⑩ | | | | | | | | | |
| ⑪ | | | | | | | | | |
| ⑫ | | | | | | | | | |
| ⑬ | | | | | | | | | |
| ⑭ | | | | | | | | | |
| ⑮ | | | | | | | | | |
| 使用テキスト: 社会福祉学科実習要綱 | | | | その他参考文献など: | | | | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習には積極的に臨んで多くを学んでください。 | | | | | | | | | |